

2023年度 静岡県言語聴覚士会 西部ブロック研修会 開催

2023年9月10日(日)に、静岡言語聴覚士会 西部ブロック研修会をZoomによるオンライン形式で実施しました。参加者は24名(県士会員22名、非会員2名)と多くの先生方に参加していただきました。

【症例検討】

「視覚入力と失行に難渋した重度ウェルニッケ失語症例」

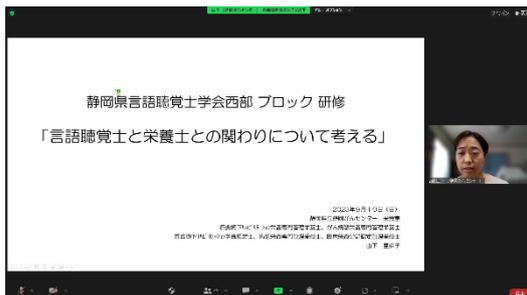
富士いきいき病院 関根綾子 先生

今回は、回復期における視覚認知障害や失行を伴った重度ウェルニッケ失語の症例でした。患者様の実際の発話や行動が細かく描写されておりイメージがしやすかったです。質問に関しては、失語や高次脳機能について様々な視点から質問がありました。損傷部位が多く症状も浮動的であり、様々な高次脳機能障害が重なり合っていたため評価や訓練の難しさを感じました。



【シンポジウム】～栄養士と言語聴覚士の関わりを考える～

講師には、静岡県立静岡がんセンター 摂食嚥下リハビリテーション栄養専門管理栄養士 山下亜依子先生と浜松医科大学医学部附属病院 摂食嚥下リハビリテーション栄養専門管理栄養士 白井祐佳先生をお招きし、「栄養士と言語聴覚士の関わりについて考える」というテーマで開催しました。山下亜依子先生からは実際の栄養管理の方法や手段などを中心に、白井祐佳先生からはリハ栄養を中心に、飯田衛先生からはサルコペニアの嚥下障害患者に対して栄養面を考えながらリハビリを行った症例の発表がありました。リハビリ対象者にサルコペニアの患者様は多く嚥下機能改善には嚥下訓練と栄養管理が必要であること、嚥下や栄養状態改善のために目指す具体的な摂取カロリーも示していただきとても参考となりました。今後、臨床では栄養状態を考慮しながらリハビリをしていきたいと思いました。



講演会運営に対するアンケート

回収人数 20 人 回収率 77%

(講義形式)

WEB 開催が良い 14 人 70%

情勢によって対応してほしい 6 人 30%

(資料の送付について)

メールでデータ便の URL が届きダウンロードできた 19 人 95%

メールでデータ便の URL が届いたがダウンロードできず、送付者に問い合わせた 1 人 2.5%

(受講中画面共有できないことが)

なかった 18 人 90% あった 2 人 10%

(受講中、音声がかれたことが)

なかった 20 人 100%

症例発表の感想

- ・資料も見やすくわかりやすかった。
- ・様々な症状がある中で色々な側面から評価されていた。決定的な原因の究明は難しいが、患者様自身の困り感などを聞きながら対応策などを考える必要性を感じた。
- ・脳画像と神経心理学的初見の関連を詳細に分析した内容で、大変勉強になりました。
- ・言語以外の症状がたくさんあり難しい症例であったのではないかと思いました。過去に自分が経験した似た症例と照らし合わせながら情景を思い起こしました。過去の自分はまだまだ合理的な訓練立案ができていなかったと感じました。発表者のように多種多様な訓練立案ができるように精進していきたいと思いました。
- ・自分も現在似たような症状の患者様を担当している為、大変参考になった。
- ・失語と他の高次脳機能障害を合併した患者さんを経験することもあります。高次脳が言語症状にどのように影響しているのか評価する必要があると感じました。また、患者さんのふとした反応に症状が表れていることがえらと思えました。単に訓練、会話ではなくひとつひとつの反応を丁寧に聴き、評価や分析に繋がられるようにしたいです。
- ・とても内容が興味深かっただけに質問だけでなく、フロアに意見等もう少し振ってほしかったです。発表者も発表の中で意見を求めていらっしやっただけなので、もっとウェルニッケ失語のことで議論したかったのが本音です。
- ・視覚障害と失語症が合併した症例を初めて聞きました。失語のみでなく、高次脳機能障害に対しても多くの配慮が必要あると思いました。この患者様のニーズは何であったのか

が気になりました。視覚情報処理や失行について、改めて考える機会になりました。

- ・視覚入力、失行を伴う重度失語症例ということで、自身で自分の症状や思いを伝えることが難しい非常に難しい症例であると感じました。その中でも脳画像から障害部位を同定し、何が原因で理解出来ていないのか、どのような評価・訓練方法が有効なのかを考えて実行し、考察することが重要であると感じました。
- ・失行、視覚障害など様々な高次脳機能障害の影響で失語の評価や訓練実施の難しさが大変伝わる内容であった。陳旧性脳梗塞の影響を考慮することや、予後予測、視覚情報のルートなど改めて考えることができた。
- ・多様で浮動的な症状を画像も含めて深く分析しておられ、大変勉強になりました。難しい症例だなあと思いました。施設後の生活をどのように送られているのか知りたくなりました。
- ・評価の難しい症例に、どのような検査を行うか、限られた情報でどのように訓練を組み立てるか、臨床歴が何年になっても難しい問題だなと感じます。
- ・もう少しゆっくり時間をかけて質問をし合えば良かったです。
- ・急性期では注意障害や失認など多彩な高次脳機能障害に加え失語がある方が多く、回復過程も見れないまま転院してしまう方が多いので、今回の症例の回復過程+残存した障害から情報処理ルートの残存した障害の考察が非常に興味深かったです。
- ・今後の訓練プログラムを考える際に参考になりました。
- ・症状がイメージつきやすくてよかった。

シンポジウムの感想

- ・栄養と嚥下機能について詳しく知れてよかった。
- ・普段小児分野に勤めているが、共通する部分があると感じた。
- ・栄養について多職種連携の重要性を再認識しました。
- ・栄養士視点での栄養管理方法等が聞いて参考になった。
- ・最後に栄養士の先生方がおっしゃっていた、栄養士さんがあまり持ちえない患者様の情報を引き出せるように努力していきたいと思いました。
- ・通所勤務で栄養状態については看護師さん任せのところがあったので、これからはしっかり確認、勉強していきたい。
- ・リハビリをするうえで、栄養状態の把握はとても重要と感じていました。栄養士さんからいただく情報だけでなく、STであるわたし自身も栄養について考えていくことも必要と思いました。そのことが、患者さんの早期退院やリハビリの円滑化に繋がると思いました。
- ・他職種である栄養士の先生方の貴重な発表を聴ける良い機会でしたので、もっと時間を取ってやってもらいたい内容でした。これだけで一つの内容でやっても良かったくらいでは。

- ・栄養士さんからの視点でお話が聞くことができ大変貴重でした。少しでも消化管を使うことが大切だと改めて感じました。
- ・嚥下調整食の栄養密度が低いことは聞いたことがありますが、エネルギー量はもちろんのこと、蛋白質まで低下しているとは思いませんでした。そのために栄養補助食品を付加しているんだと考えました。栄養についての知識はまだまだ少ないため、自身で勉強しつつ、管理栄養士さんにも頼っていきたいと思いました。
- ・サルコペニアと摂食嚥下障害に関するお話、栄養士の実務内容と ST との関わり、サルコペニアの摂食嚥下障害患者の症例など、大変勉強になるお話ばかりで充実した研修会であったと感じました。
- ・私は今年で回復期 ST2 年目になります。自分自身、分からないことだらけで先輩方に相談しつつ、模索しながら日々リハビリに務めています。自身の 1 例として 3 食経口摂取は可能でしたが、なかなか摂取量が取れず PTOT でのリハビリも思うように進まない症例がありました。今回のお話を聞き、自身の知識不足、経験不足を痛感致しました。患者さんの嚥下状態をみて経口摂取訓練に進めるだけではなく、全身の栄養状態を把握することが非常に重要であると学び、臨床に繋げていきたいと強く思いました。
- ・栄養士の先生方から貴重なお話を聞くことができ、リハ栄養において多職種協働がとても重要になることを改めて実感した。リハビリ病院とはまた異なり、急性期病院や、がんセンターでの栄養士や ST の役割、ST に求められることが聞いてよかった。
- ・嚥下障害について栄養の面から学び考える機会をいただきました。できるだけ早期に絶食から経口摂取へ移行することが理想ではありますが、リハビリの依頼が出たときにはすでに何週間も絶食した後…というケースが少なくない現状があり、難しさを感じました。
- ・サルコペニアによる嚥下障害が増えている印象があります。栄養士さんとのやり取りも更に進めていきたいと思いました。
- ・自分の職場ではわりと摂食嚥下を PT、OT にお願いしてしまうことが多いのですが、最後の金田先生のコメントにもあった通り、ST も積極的に栄養士さんたちとコンタクトを取り、主体的に動く、ということをもっと意識したいと思います。
- ・いろいろな経験をされている栄養士の方にお話を聞いて刺激になりました。
- ・ST だからこそ栄養について詳しくなければいけないと思う発表でした。
- ・当院でも栄養についての勉強会がありましたが、一度では理解が難しいこともあり、今回の題材は非常に勉強になりました。
- ・栄養とリハビリテーションの必要性が分かって良かった。